



関口昌男 議員
(日本共産党)

問 難聴者のための補聴器
助成制度の実現を

高齢化が進むと難聴者が増え、この障害は認知症の進行にも影響を与えることなどで補聴器の普及の必要性が叫ばれている。日本では公的補助が少ないため普及が遅れているが、幾つかの自治体では補助制度が実施されている。白岡でもこの実施を検討されたい。

答 国の研究結果公表など
動向を注視したい

難聴を含め老化に伴う身体機能の低下に対応した社会生活上の支援を行うことは、実施によるその効果を見極めながら検討する必要がある。国では、補聴器を使用することで認知機能がどう変化するか観察研究中であり、研究結果の公表など国の動向を注視したい。

問 市のシンボルとして
市の鳥の制定を

白岡市は「野鳥の集う豊かな景観、市内を縦横に走る河川は、治水機能を果たすばかりでなく、身近な親水空間と水辺空間を創りだしています」と紹介されている。この白岡により誇りと愛着を持っていただくため機会を見て白岡の鳥の制定をしてはいかがか。

答 時間を掛けて検討を
進めていく

市の鳥の制定は、白岡市に対する愛着の醸成や、まちの活性化に寄与するものであれば、大変意義のあるものである。今後、シティプロモーション戦略を進める中で、市民の意向や機運の高まりなどを勘案した上で、時間を掛けて検討を進めていく。



大島 勉 議員
(創政会)

問 無料公衆無線LANの
整備について

コロナ禍で新しい生活様式への対応が求められる中、国ではIT化への推奨もしており、市民や当市を訪れるかたへの利便性向上、また、避難所での活用も見込める無料公衆無線LANの整備が必要であると考え。民間活力などを利用し整備する考えがあるか伺う。

答 より良いサービスの
提供に努める

公共施設への無料WiFiの整備は、財政状況を勘案しながら、各施設の利用頻度や利用形態を考慮し段階的に整備を進めていきたい。整備に当たっては、民間活力の活用や費用を抑えられる手法を検討するとともに、国の補助金等を有効に活用していく。

問 市内の路上設置物等の
管理について

市制施行からしばらくたっても、「白岡町」表記の標識類が残っていた。現状はどうか。カーブミラーや道路のライン等も長期の使用によって見づらくなっている場所が多くなり、改善が必要な場所も多い。改善策について伺う。

答 不具合箇所の速やかな
復旧に努めていく

「白岡町」の表記が残っている看板等を確認した場合は、速やかに対応していく。カーブミラーについては、道路パトロールや「道路等の不具合通報システム」を導入し、早期対応に努めている。また、区画線については、優先度を判断し、順次復旧に努めていく。



細井 公 議員
(白岡ビジョン)